

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニシヨウガクシヤ 学校法人 二松学舎								
フリガナ大学の名称	ニシヨウガクシヤダイガク 二松学舎大学 (Nishogakusha University)								
大学本部の位置	東京都千代田区三番町6番地16								
大学の目的	本大学は、東洋の精神による人格の陶冶を旨とし、学校教育法に基づき、広く一般の基礎教養に関する学術と、更に深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させるとともに、世界文化の進展に寄与し、国家社会に貢献する国際性豊かな有為の人物を養成することを使命とする。								
新設学部等の目的	日本及び東アジアの学術を基盤にした幅広い専門領域を使った課題発見の知と問題解決の知のスキルを身に付け、国際社会で日本の文化社会が直面する問題を、世界への貢献という姿勢で取り組み、そして解決できる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	国際日本学研究科 [Graduate school of Global Japanese Studies]	年	人	年次人	人	修士（文学）	令和4年4月	東京都千代田区三番町6番地16	
	国際日本学専攻 [Course of Global Japanese Studies]	2	20	—	40				
計			20	—	40				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大学院 国際日本学研究科〔定員増〕 (20) (令和3年4月届出) 文学部 歴史文化学科 (60) (令和3年6月届出予定) 国文学科〔定員減〕 (△60) (令和4年4月) 都市文化デザイン学科 (30) (令和3年3月学則変更認可申請予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際日本学研究科	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
	新設分	国際日本学研究科 (M)	5 (5)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		計	5 (5)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	— (—)
	既設分	文学研究科 国文学専攻 (M)	13 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (16)	0 (0)	3 (3)
		中国文学専攻 (M)	6 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	2 (2)
	計	19 (21)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (23)	0 (0)	— (—)	
	合計	24 (26)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	34 (36)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	75 (75)			3 (3)			78 (78)	
	技術職員	0 (0)			0 (0)			0 (0)	
	図書館専門職員	3 (3)			1 (1)			4 (4)	
	その他の職員	0 (0)			0 (0)			0 (0)	
	計	78 (78)			4 (4)			82 (82)	

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	(共用) 附属高校、 附属柏中・高校 (設置 基準面積) 27,200㎡ (収容定員)				
	校舎敷地	3541.86㎡	18,145㎡	0㎡	21,686.86㎡					
	運動場用地	0㎡	105,337㎡	0㎡	105,337㎡					
	小 計	3541.86㎡	123,482㎡	0㎡	127,023.86㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	合 計	3541.86㎡	123,482㎡	0㎡	127,023.86㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		41,241.13㎡ (41,241.13㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	41,241.13㎡ (41,241.13㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	66室	21室	7室	4室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		国際日本学研究科			13 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 ・図書〔356,498冊〕 ・学術雑誌〔7,059タイトル〕 ・電子ジャーナル〔4,543点〕 ・データベース〔6点〕 ・電子書籍〔1,308点〕 ・視聴覚資料〔8,408点〕		
	国際日本学研究科	203〔65〕 (107〔35〕)	6〔0〕 (6〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計	203〔65〕 (107〔35〕)	6〔0〕 (6〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体					
		3,574.84 ㎡	480 席	376,302 冊						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		2,168.82㎡	武道館			—				
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※共同研究費については大学全体 ※図書購入費は電子書籍を含む
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	—	—	—	—	
		共同研究費等		16,700千円	16,700千円	—	—	—	—	
		図書購入費	1,000千円	500千円	500千円	—	—	—	—	
	設備購入費	2,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	870千円	620千円	—千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								
大 学 の 名 称		二松学舎大学								
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	文学部	年	人	年次人	人		倍			
	国文学科	4	300	—	1200	学士(文学)	1.13	昭和24年度	東京都千代田区三番町6-16	
	中国文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.27	昭和24年度	千葉県柏市大井2590	
	都市文化デザイン学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.10	平成29年度		
	国際政治経済学部									
	国際政治経済学科	4	160	—	640	学士(国際政治経済学)	1.12	平成3年度	同上	
	国際経営学科	4	80	—	320	学士(経営学)	1.11	平成30年度		
	大学院文学研究科									
	博士前期課程国文学専攻	2	16	—	32	修士(文学)	0.56	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16	
	博士前期課程中国学専攻	2	16	—	32	修士(文学) 修士(日本漢学)	0.65	昭和41年度		
	大学院文学研究科									
	博士後期課程国文学専攻	3	5	—	15	博士(文学)	0.46	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16	
	博士後期課程中国学専攻	3	5	—	15	博士(文学) 博士(日本漢学)	0.80	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16	
大学院国際政治経済学研究科										
国際政治経済学専攻修士課程	2	10	—	20	修士(国際政治経済学)	0.80	平成13年度	東京都千代田区三番町6-16		

附属施設の概要	該当なし	
---------	------	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要

（国際日本学研究科 国際日本学専攻）

科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学・文化学講座	講義科目	日本芸能・文化論講義Ⅰ	1・2前	2		○			1						
		日本芸能・文化論講義Ⅱ	1・2後	2		○			1						
		日本語学講義	1・2前後	2		○				1					
		比較文学文化論講義Ⅰ	1・2前後	2		○					1				
		比較文学文化論講義Ⅱ	1・2前後	2		○			1						
		比較文学文化論講義Ⅲ	1・2前後	2		○				1					
		比較芸術学講義	1・2前後	2		○					1				
		国際日本学講義Ⅰ	1・2前	2		○			1						
		国際日本学講義Ⅱ	1・2後	2		○			1						
		小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	5	2	2	0	0		
演習科目	国際日本学演習ⅠA	1・2前		2			○		1						
	国際日本学演習ⅠB	1・2後		2			○		1						
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	2	0	0	0	0			
メディア表現学講座	講義科目	メディア論講義	1・2前後	2		○			1						
		表象文化論講義Ⅰ	1・2前	2		○					1				
		表象文化論講義Ⅱ	1・2後	2		○					1				
		情報文化論講義	1・2前後	2		○					1				
		小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	1	0	3	0	0		
	演習科目	国際日本学演習ⅡA	1・2前		2			○		1					
	国際日本学演習ⅡB	1・2後		2			○		1						
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	2	0	0	0	0			
社会文化論講座	講義科目	都市文化論講義	1・2前後	2		○					1				
		観光文化論講義	1・2前後	2		○			1						
		歴史社会論講義	1・2前後	2		○					1				
		小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	1	0	2	0	0		
	演習科目	国際日本学演習ⅢA	1・2前		2			○		1					
	国際日本学演習ⅢB	1・2後		2			○		1						
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	2	0	0	0	0			
(研究指導)		—	—	—	—				5						
合計(22科目)		—	0	44	0	—	—	5	2	6	0	0			
学位又は称号	修士(文学)	学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
講義科目から26単位、演習科目から4単位以上を修得し、30単位以上修得すること。								1 学年の学期区分			2 期				
								1 学期の授業期間			15週				
								1 時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際日本学研究科 国際日本学専攻)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学・ 講義科目	日本芸能・文化論講義Ⅰ	近世の芸能興行を理解するにあたって必要となる、興行者側の問題、作劇上の資料、芝居世界の年中行事などの慣習、芝居を取り上げた出版物などを講読して、近世の歌舞伎、浄瑠璃、落語などを理解していく。幕府・公儀側から通達された触書の類も参照することで、当時の芸能がどのような環境下で行われていたかについても知識を深める。現代に演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷を総合的に理解することを目標とする。	
	日本芸能・文化論講義Ⅱ	芸能に絞って記された文献資料ではなく、社会風俗の記録、文人の日記、年中行事の紹介といった各種の文献記録を読み解き、その中で芸能がどのように、またどの程度扱われているかを把握することで、芸能が演じられた時代の社会的背景を理解する。江戸と京都・大坂といった都市間の気風や風習の相違にも着目する。また、現在演じられている伝統芸能を見聞してその特質を把握することとあわせて、芸能の変遷や位置付けを総合的に理解することを目標とする。	
	日本語学講義	形態論を中心に日本語における「単語」という単位について検討する。本講義を通じ、言語の基本的な単位である「単語」と言語活動におけるもっとも小さな単位である「文」の区別を理解したうえで、日本語における語形変化（パラダイム）を把握する。現代日本語の「形態論的なカテゴリー」や「形態論的な形（語形）」を具体例に解説しながら、欧米や東アジアの諸言語との比較も加えて、日本語の「単語」についての理解を深めていく。	
	比較文学文化論講義Ⅰ	前漢の劉向が著した『列女伝』は、明清以降、「俗本」が多く著されることにより、女性のための教訓書として広く読まれるようになった。日本でも、劉向の『列女伝』を増広した系列の本のほか、『仮名列女伝』・『本朝列女伝』など「俗本」が出版され、女訓書の中心となった。本講義では、明治十一年に東京師範学校教授の松本万年が著した『参訂劉向列女伝』を読み、明治期日本における『列女伝』の受容を中国と比較する	
	比較文学文化論講義Ⅱ	最近注目されている韓国ドラマから題材を選び、その映像を参照しつつ韓国語のシナリオを読む。映像やセリフの抑揚によって文字だけではわからない韓国語の細かいニュアンスを感じとり、それぞれの場面における韓国語の様々な生きた表現や文法を学ぶ。また、それを日本語に訳すことによって、そこにあらわれる韓国と日本の言語表現の違い、文化の違い、考え方の違いについても考察する。韓国語の基礎的な知識（ハングル文字が読める、簡単な文章が理解できる）が必要である。	
	比較文学文化論講義Ⅲ	本講義では、中国・韓国・日本に残される神話神仙的文学（文献）及びその図像について、比較的扱う。とくにアジア最古の神話的地理誌と言われる『山海経』には古来、図像をとまなうことで知られ、近年現れた出土資料により、新たな局面が明らかになりつつある。その『山海経』を核とした博物・神々の韓国・日本にみる受容と選択について、文学のみならず歴史・思想・考古学など広範な資料を用い、つつ検討する。受講者には基本的な古典文献の読解を可能とする、中国語・日本語の能力が求められる。	
	比較芸術学講義	近世、宣教師、商人、船員や医師などの活動によってヨーロッパと東アジアの間ではダイナミックな医学交流が行われていた。当時に書かれた医学書、観察記録、手紙、辞書やその他の一次資料を使い、近世ヨーロッパと東アジアにおける東洋医学と西洋医学の受容プロセスを論じて明らかにする。また本講義では、医学史、社会史、ジェンダー論など多様な学問分野に基づき東アジアを対象とした英文と日文の医学史研究を用い、当時のヨーロッパと東アジアにおける身体観、病気観、医療の多様性も考察する。	

文化学講座	国際日本学講義 I	<p>アヘン戦争後に極東進出を本格化した欧米列強は、1858年の修好通商条約（安政の五ヶ国条約）により日本との外交関係を樹立した。幕末開国史や明治維新にいたる国内の政争などに関する日本史研究に比べ、対日接近をめぐる欧米国内の具体的事情はあまり知られていない。</p> <p>そこで本講義では、フランスの事例に即して、英米等とは一線を画す対日外交の独自性にアプローチする。そのために、第一に英米との比較およびヨーロッパ情勢との連関を視野にいれつつ、対日外交関係の構築・維持にむけたフランス外交体制を考察する。第二に、外交の最前線たる現地外交官が直接的に未知の異文化と対峙し、とくに外交関係を開拓すべき初期局面ではきわめて重要な役割をになうことになった点を重視し、外交官たちによる日本情報入手などの任務遂行にかかわる諸問題、および彼らの日本観、対日政策を検討する。以上により、フランス外交の視点から欧米列強の対日関係を歴史学的に考究するための知見を深める。</p>	
	国際日本学講義 II	<p>ヨーロッパは、他のさまざまな分野と同様にワイン文化の面でも日本に大きな影響を与えてきた。16世紀後半までにヨーロッパからもたらされたワインは、江戸時代にオランダ船によって長崎・出島に輸入され、将軍や諸大名などにも献上された。明治になると、フランスで学んだワイン醸造技術をもとに、国産ワイン産業の基礎が築かれることとなる。</p> <p>そこで本講義では、同じく醸造酒たる日本酒（清酒）文化の歴史的展開と比較しながら、まず江戸時代までの日本のワイン経験、および明治以降の国産ワイン産業の展開を概観する。ついで、現代ワイン世界の主要理念となり、日本酒業界にも影響を与えつつある「テロワール」論に注目し、そこにみるワインづくりの思想を明らかにしつつ、ヨーロッパワイン法の中核をなす原産地統制呼称制度および地理的名称（GI）制度へといたるプロセスを検討する。以上により、ワイン文化の視点から欧日間の異文化関係を歴史学的に考究するための知見を深める。</p>	
演習科目	国際日本学演習 I A	<p>一般に、幕末日本による条約交渉は欧米列強のペースで進められた観が強い。しかし、欧米側にとって日本はほとんど未知の国であり、しかも多言語環境のもとでの外交交渉が順調に推移したとはいいがたく、十分なコミュニケーションを図ることは大きな課題であった。</p> <p>そこで本演習では、対日外交にあたり、欧米列強が翻訳・通訳の諸問題に関しいかなる解決策を試みたのか、それがどのような日本理解にいたったのかに関する諸側面に着目し、各種の外交文書、文筆物を丹念に読み解くことにより欧日間の異文化理解の実態に迫る。I Aでは、英・米・蘭・仏・奥の対日条約正文（英、蘭、仏、独、羅、和）を読解、比較検討する。</p>	
	国際日本学演習 I B	<p>一般に、幕末日本による条約交渉は欧米列強のペースで進められた観が強い。しかし、欧米側にとって日本はほとんど未知の国であり、しかも多言語環境のもとでの外交交渉が順調に推移したとはいいがたく、十分なコミュニケーションを図ることは大きな課題であった。</p> <p>そこで本演習では、対日外交にあたり、欧米列強が翻訳・通訳の諸問題に関しいかなる解決策を試みたのか、それがどのような日本理解にいたったのかに関する諸側面に着目し、各種の外交文書、文筆物を丹念に読み解くことにより欧日間の異文化理解の実態に迫る。I Bでは欧米列強の日本観を探るため、欧米外交官たちによる知的格闘の具体例として国制（天皇・将軍・大名）をめぐる理解状況を検討する。以上を通じて、幕末史に関する知見を深めるとともに、歴史学の研究方法に習熟しつつ欧文史料の読解力を鍛錬する機会とする。</p>	

メディア表現学講座	講義科目	メディア論講義	人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。コミュニケーションを媒介するメディアの作用を理解するために、記号論やメディア論やコミュニケーション論における基礎的な理論について、口承、文字、活字、電子、デジタル、ソーシャルなど、多種多様なメディアムに関する事例をとりあげながら体系的に学習していく。 なお、本講義ではテキストとして指定する書籍に依拠しながら、そこに含まれるそれぞれの論考の精読をつうじて、現代文化を理論的に考察するための方法論を学習することになる。	
		表象文化論講義Ⅰ	1890年代から1940年代までのアートを中心に、造形と言葉の両面から学ぶ。抽象への志向、絵画と写真の関係、既製品と複製、前衛の衝撃と伝統回帰、西洋文化の伝播・受容とそこからの逸脱、革命と戦争への奉仕などについて理解を深める。授業ではスライドなどを見て歴史的名作を教養的な知識として身につけることにとどまらず、美術家・美術評論家によるテキストの主体的な読解をつうじて、わたしたちの内側にある「ものの見方」を突き崩してゆく。	
		表象文化論講義Ⅱ	1950年代から現在までのアートを中心に、造形と言葉の両面から学ぶ。アメリカを中心とする世界観とそれに対する抵抗、フェミニズム、学生運動などがいかにアートに影響を与えてきたか。写真、映像、建築、ファッションなど周辺領域との関連にも目を配りながら、同時代の視覚表現の豊かさについて理解を深める。授業ではスライドなどを見て歴史的名作を教養的な知識として身につけることにとどまらず、美術家・美術評論家によるテキストの主体的な読解をつうじて、わたしたちの内側にある「ものの見方」を突き崩してゆく。	
	演習科目	情報文化論講義	社会における情報流通の在り方は、大きな変容のただなかにある。その主要な原因の一つはメディアテクノロジーの進化だ。マスメディアは、いまでは情報流通の中心ではなく、数多くある多様なメディアの一つでしかない。個人はかつてなく自在に情報を発信できるようになっており、さまざまな規模のコミュニティが組織されていっている。また、さまざまな情報、コンテンツはフローとして流れ去っていくのではなく、アーカイブとしてストックされていく。もちろんそこに生じているのは単なる開放ではない。プラットフォームなどによる情報、コンテンツ、ユーザーの囲い込みという形で、新たな権力構造が生じている。 本講義では情報文化やメディアをめぐる基礎的な文献の精読を通じて、現在起きている情報環境の変容について学問的に位置付けることのできる視野を学んでいく。	
		国際日本学演習ⅡA	インターネットやそれと連携するソーシャルメディアの発達によって、現在ではかつてない速さで、各種のサービスやコンテンツがトランスナショナルに流通しつつある。たとえば日本と中国との関係に限って考えてみても、たとえば中国の若者は、「bilibili」のような動画共有サイトを活用して日本の映画やアニメなどのコンテンツへと容易にアクセスしうる。逆に日本の若者は、「TikTok」や「荒野行動」のような中国発のソーシャルメディアやソーシャルゲームに夢中である。現代では、インターネットを介した各種のサービスやコンテンツが越境的に流通し、そしてそれをもとにした新たな文化が台頭しつつある。「国際日本学」をテーマとする本授業では、以上を念頭におきながら、指定された書籍にもとづいて演習を展開していくことになる。	
		国際日本学演習ⅡB	現代において都市とは、多種多様なテクノロジーやカルチャーが混交し、そこから新たな想像力がリキッドに生成される特権的な場になりえている。本授業であつかう現実の都市——東京であれば渋谷、秋葉原、浅草などの空間、地方であれば札幌、奈良、京都、大阪などの空間——は、個々に独自の地域的伝統をもちながら、他方ではそれをベースとして、またはSNS等の各種メディア・テクノロジーを媒介して、訪日外国人を含む多くの人びとにとって魅力的なコンテンツを日々みだしつつある。「国際日本学」をテーマとする本授業では、以上を念頭におきながら、指定された書籍にもとづいて演習を展開していくことになる。	

社会文化論講座	講義科目	都市文化論講義	<p>【概要】 都市は様々な文化の生産、発展、発信を担ってきた。本講義では特に近代以降の日本の都市文化を中心にその特徴と現代的な意味を考えていく。その際、都市文化を含む文化そのものを批判的に捉える視点が必要になる。すなわち、都市文化が所与のものではなく、その背後には政治的、経済的、社会的要因が存在しており、同時に都市文化が各時代、地域の政治、経済、社会に影響を与えてきた、という視点である。</p> <p>【到達目標】 ①. 都市文化が今日の社会に及ぼす影響とその意味について、都市文化の成立や変化、特徴を、身近に存在する様々な事例を通じて理解する視点を習得することである。 ②. 概要でも述べたように、都市文化の背後には政治的、経済的、社会的要因が存在しており、同時に都市文化が各時代、地域の政治、経済、社会に影響を与えてきた点を踏まえ、都市文化をより批判的かつ本質的に捉える視点を習得することである。</p>	
		観光文化論講義	<p>国境を越えて行われる観光を現代社会の重要な文化事象として捉え、その特徴を、擬似イベント、オーセンティシティ(真正性)、商品化、記号消費といった鍵概念を用いて論じ、明らかにする。とくに、観光とその対象となる文化の関係について考察する。従来、先進国から途上国への観光が文化に及ぼす影響については、変容や商品化といったマイナスの側面が強調されてきた。それとかわかってオーセンティシティの成否をどうとらえるかは議論が分かれるところである。しかし、観光と文化の関連は一面的ではなく、両者の相互作用のなかで多面的な解釈が並存したり、新たな文化が創られたりする動的な側面にも着目すべきである。そうした構築主義的な観点も視野に入れながら、これまでの研究事例を通じて、観光文化の創出の可能性を論じる。</p>	
		歴史社会論講義	<p>日中戦争とアジア・太平洋戦争の文化表象を歴史社会学の観点から研究する。戦後日本で発表された小説、映画、テレビドキュメンタリー、テレビドラマ、マンガ、アニメのなかで、日中戦争とアジア・太平洋戦争がどのように描かれてきたのかを検証する。首都圏の戦争・平和博物館の展示を見学し、その内容を分析する。日本の学校教育において日中戦争、アジア・太平洋戦争がいかに教えられてきたのかを考察する。日本人の戦争観と平和観の変遷と特徴について理解する。</p>	
	演習科目	国際日本学演習ⅢA	<p>日本におけるコロナ禍以前の急激な外国人観光客の増加は、国際間の視覚化された移動現象であった。しかしながら、観光は人の移動だけでなく、モノ、カネ、情報、イメージ等の移動が結びついたグローバルなシステムの上に構築されているのであり、その分析にはこれらの要素の相互作用を理解することが必要となる。また、現代日本の観光の展開は、地域の固有の歴史や伝統文化などの客観的本物性を根拠とする議論では説明がつかなくなっている。たとえば、アニメ聖地巡礼、ご当地キャラクターやB級グルメ、インスタ映えスポットなどは、メディアのコンテンツが現実には及ぼす作用や、文化的コンテクストに依存する観光(地)のありようを抜きにして論じられない。こうした問題関心のもとに、本演習では、グローバルとローカルの交錯する現代的な文化現象として観光をとらえ、観光社会学、観光人類学等の先行研究に示される専門的知見に学び、さらにその応用や批判的検討を試みる。</p>	
		国際日本学演習ⅢB	<p>現代における都市の変容は著しいが、その基底にあるのは脱工業型都市への転換である。グローバル化の進展を背景にした、より高次の機能の集中は、都市にさまざまな変化を及ぼす。なかでも、脱工業型の都市に共通する大きな特徴は、都市が消費の空間へと変容することである。その消費も、単なる商品消費にとどまらず、エンターテインメントやスペクタクル、ヴァーチャル・リアリティやシミュラークルといったサービスや視覚やイメージの消費が重視されている。この傾向を反映して、今日の都市空間の変容をディズニランド化あるいは審美化といった概念でとらえる試みがなされてきた。本演習では、現代都市の空間変容について、内外の代表的な所説からその特徴を学ぶ。さらに、〈場所〉の喪失と〈空間〉の拡大という現象や、再開発の過程で生じるジェントリフィケーションなどの問題系を視野に置きつつ、ディスカッションを通じて論点の理解を深める。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人二松学舎 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

令和4年度

	入学 定員	編入 学	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
二松学舎大学				二松学舎大学				
文学部				文学部				
国文学科	300	-	1,200	国文学科	240	-	960	定員変更 (△240)
中国文学科	90	-	360	中国文学科	90	-	360	
都市文化デザイン学科	50		200	都市文化デザイン学科	50	30	260	外国人留学生に限定した特別枠
				歴史文化学科	60	-	240	学科の設置 (届出)
国際政治経済学部				国際政治経済学部				
国際政治経済学科	160	-	640	国際政治経済学科	160	-	640	
国際経営学科	80		320	国際経営学科	80	-	320	
計	680		2,720	計	680	30	2,780	

令和3年度

令和4年度

	入学 定員	編入 学	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
二松学舎大学大学院				二松学舎大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻(博士前期)	16	-	32	国文学専攻(博士前期)	16	-	32	
国文学専攻(博士後期)	5	-	15	国文学専攻(博士後期)	5	-	15	
中国学専攻(博士前期)	16	-	32	中国学専攻(博士前期)	16	-	32	
中国学専攻(博士後期)	5	-	15	中国学専攻(博士後期)	5	-	15	
国際政治経済学研究科				国際政治経済学研究科				
国際政治経済学専攻(修士)	10	-	20	国際政治経済学専攻(修士)	10	-	20	
				国際日本学研究科				研究科の設置(届出)
				国際日本学専攻(修士)	20	-	40	
計	52		114	計	72		154	